

令和元年度 新潟市農業活性化研究センター試験成績書

研究課題	ストックの周年栽培に向けた遮光資材の検討
背景・ねらい	ストックは仏花やウェディングなどでの需要が高いものの、高温期に高品質の切花を出荷することが難しく、大きな需要を見込める7月から8月の出荷が少ない。本試験では、遮光資材を用いることで低温期から高温期までの連続出荷が可能か検討する。
担当者	山口 次郎, 渡邊 智之, 船木 武人, 渡邊 一彦, 今井 万葉
研究年度	2019～(1年目)

1 目的

前年までの結果から遮光による開花抑制効果が確認されたため、今年度は遮光による開花時期および品質への影響を調査する。

2 方法

(1) 供試品種 (スプレータイプ 8 品種)

【極早生】カルテット系：レインボー, ブルー, ホワイト, ワイン <ミヨシ>

【中 生】ファミリー系：アプリコット, マリン, ホワイト, ピンク <サカタのタネ>

(2) 試験区の構成・規模

8区2反復 1区8品種36本, 播種期4回 × 遮光あり・なし

(3) 耕種概要

ア 試験圃場：パイプハウス (砂壤土)

イ 播種・定植：4月2日・23日, 5月8日・28日, 6月12日・7月1日, 7月2日・18日

ウ 栽植様式：畝幅130cm, 条間15cm, 株間15cm, 6条植え

エ 施肥：基肥 (kg/10a) N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=15-15-15

追肥 適宜状況を見て液肥で施用 (N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=8-6-5 を灌注)

オ 被覆：黒寒冷紗トンネル密閉遮光 (遮光率50%)

4月播種区：4月23日～5月23日, 5月播種区：5月28日～6月28日

6月播種区：7月1日～8月1日, 7月播種区：7月18日～8月21日

カ 保温：10月30日～二重カーテン保温

(4) 調査項目

採花日\*, 採花本数, 切花長, 茎径, 節数, 重量, 側枝数, 葉色

※年内採花を目的としたため, 12月23日で調査打ち切り

3 結果の概要

(1) 4～6月播種区は遮光による開花抑制の傾向がみられた (図1, 2)。

(2) 6, 7月播種区では全体的に採花日のバラつきが目立ち, 採花期間は最長で80日程度と, 4, 5月播種区と比べ大きな開きがみられた (図1, 2)。

(3) 切花長は, 遮光区で伸長する傾向がみられたが, いずれの区においても出荷規格のMサイズ60cmには達しなかった (図1)。

(4) 採花率は, カルテット, ファミリーのいずれも6月播種区まで試験区による差はみられなかった。7月播種区では, ファミリー系の対照区において未開花株が多くなったために大きく数値を落としたのに対し, 遮光区では90%以上の数値を示した (図1)。

4 まとめ

・採花時期について

4～6月播種区では, 遮光による開花抑制効果を確認できた。特に6月播種区は採花日のバラつきこそみられたものの, 遮光による開花抑制の効果が最も大きくあらわれた (図2)。

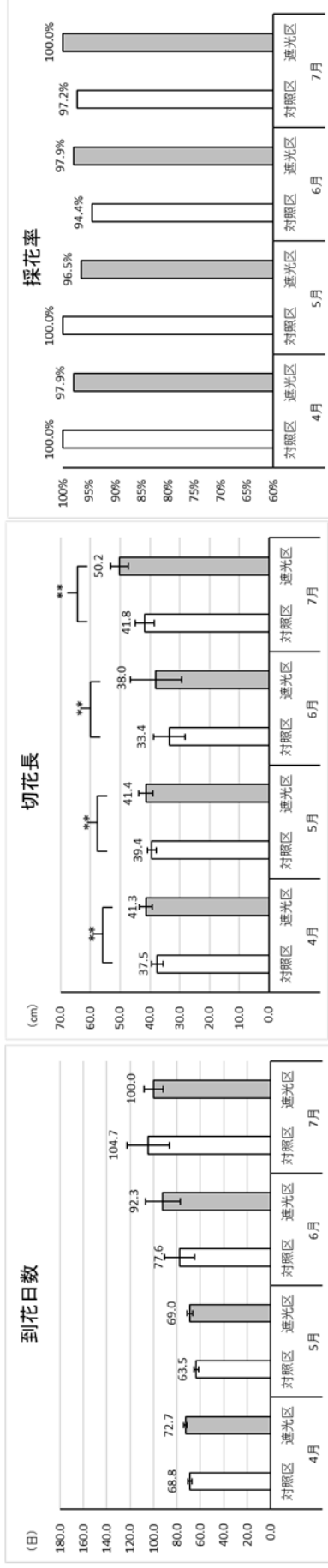
7月播種区では, 遮光区の採花日の方が早くなる品種もみられたが, これは対照区が生育初期に高温の影響を受けたことで花芽分化にバラつきが生じたためと考えられる (図3)。特にファミリー系は未開花株が多く, 採花率にも大きく影響が出ていた。一方でカルテット系では, 遮光することで採花日のバラつきが顕著に抑えられていた。

・品質について

ファミリー系では5, 6月播種区で, カルテット系では全ての播種区で, 遮光による切花長の有意な伸長がみられた (図1)。ファミリー系7月播種区でも, 遮光により伸長する傾向がみられた。

今年度の結果から, 寒冷紗によるトンネル密閉遮光により, 採花期のコントロールや草丈伸長を期待できることが示唆された。

## カルテット系



## ファミリー系

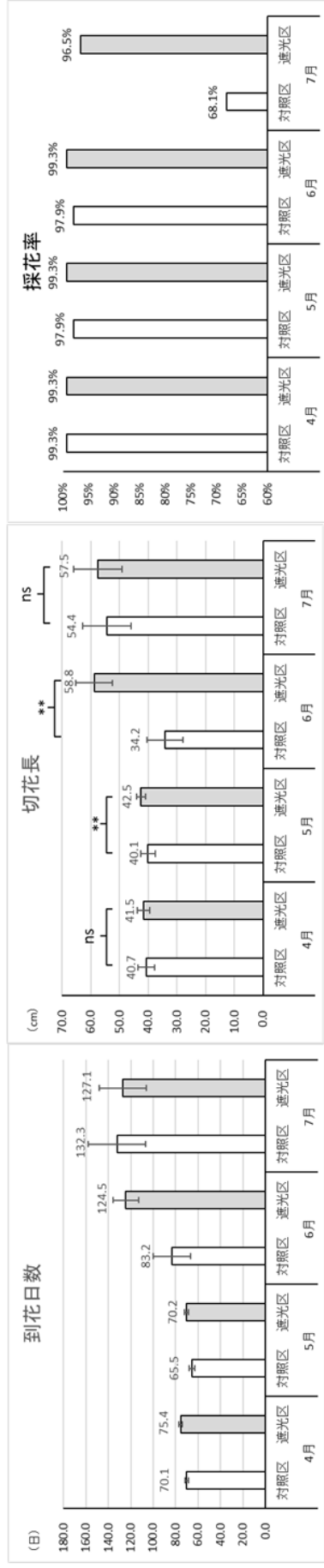


図1 到花日数および切花長、採花率 (エラーバーは標準偏差)

\*\* 1%水準の有意差あり, ns 有意差なし

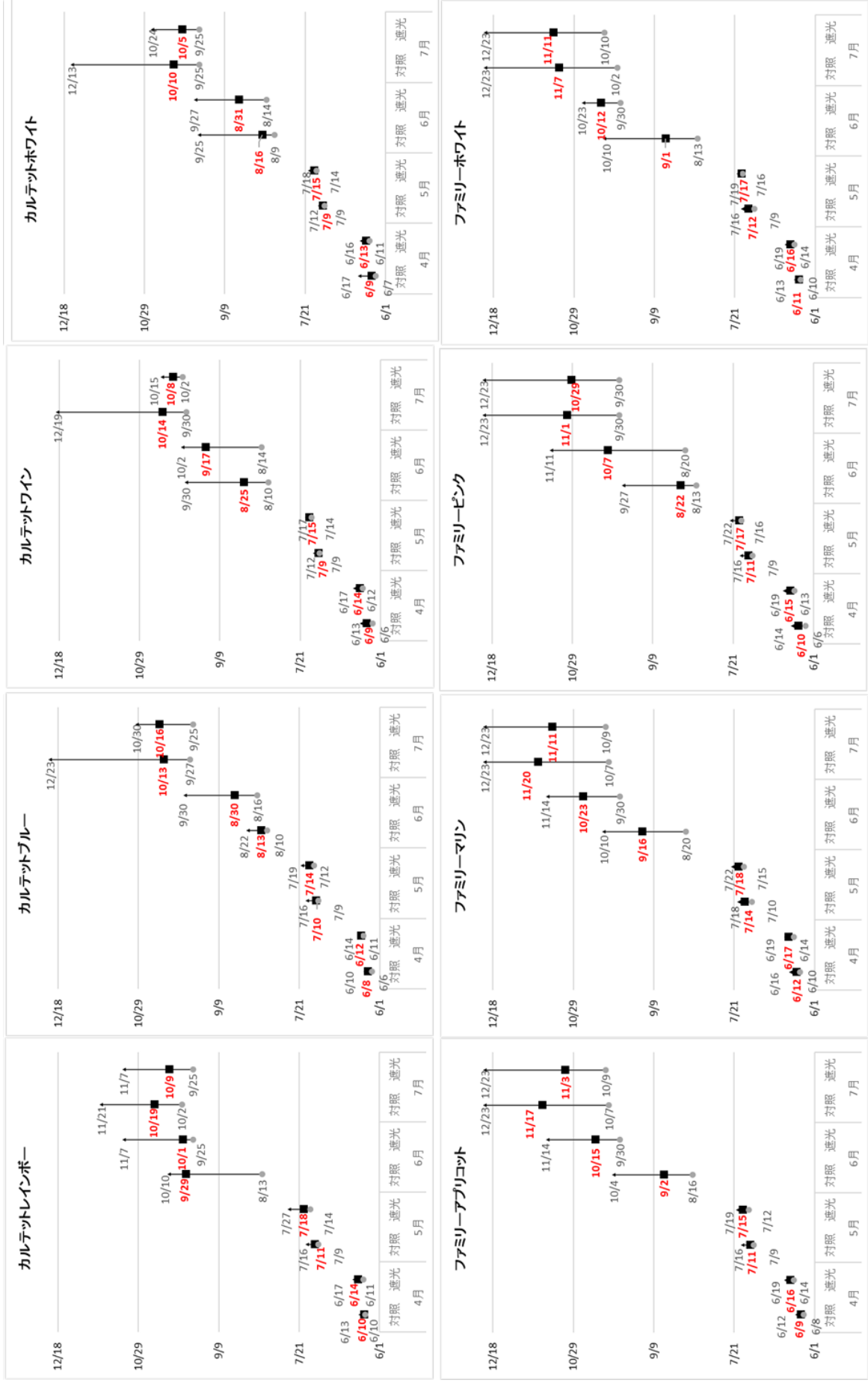


図 2 平均採花日および採花時期 (12月23日で調査打ち切り)

▲ 遅花  
● 早花

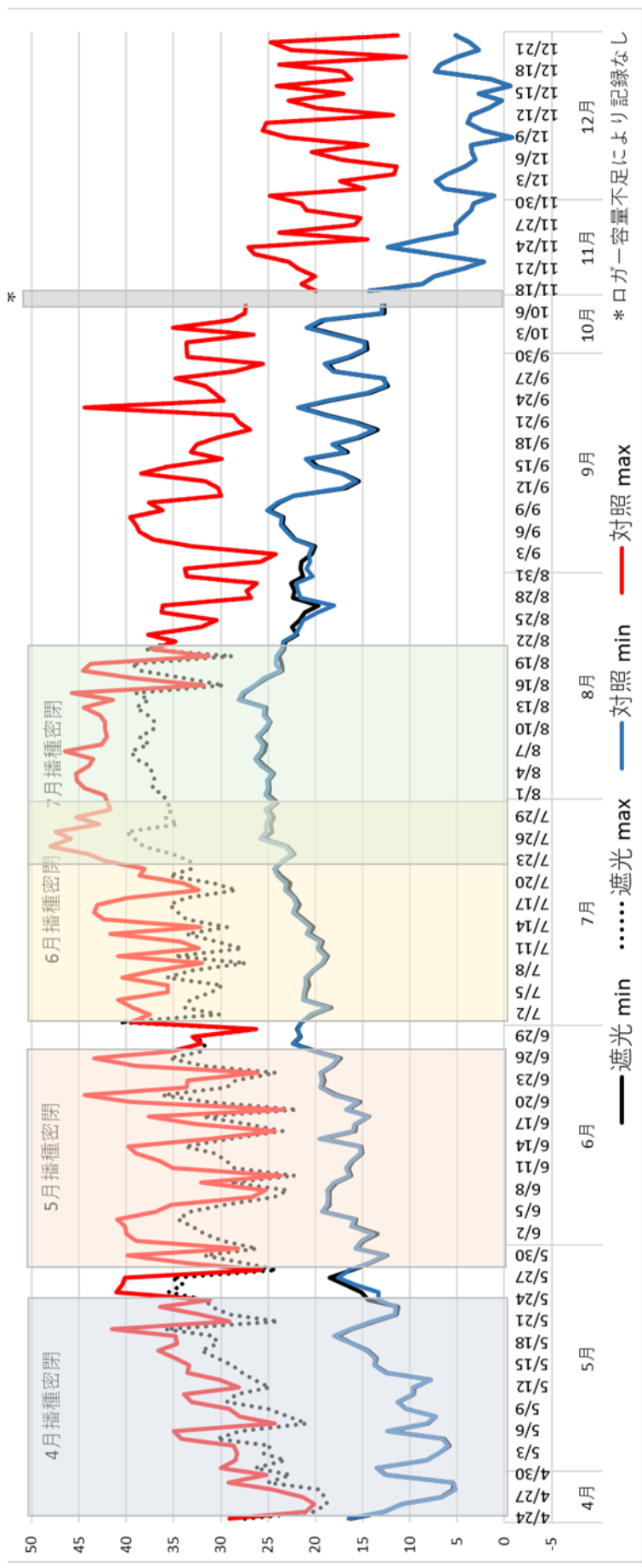


図3 ハウス内温度及び密閉トンネル内温度